

# 25人の戦争体験

## 文と絵で冊子に

あきる野9条の会

朝日 1/27

1年をかけてまとめられた戦争体験記の冊子



あきる野市を中心に活動する「あきる野9条の会」が、太平洋戦争を体験した人々の文章や絵を冊子「私たちの戦争体験記」にまとめた。2日には体験記を寄せた人々たちを交えた懇談会も開く。

「語り部」が少なくなる中、同会は「ぜひ若い世代の人たちに読んでもらいたい」と話している。冊子には空襲の中を家族で逃げまどった様子や疎開先での飢え、出征した兄の死など、あきる野

た野武雅之さんは、体験記を寄せた後、今年4月に亡くなった。軍港・横須賀で小学生だったという野武さんは、次のような体験をつづっている。

空襲警報が鳴り、灯火管制の暗い灯の下で、母子5人の生活が続いた。戦争は負けていると、のうさはあったが、「最後には神風が必ずふいて敵をやっつけてくれる」と雑誌は書き、玉砕も退却も美談として報じられた。戦後、黒塗りの教科書で教壇に立つ教師に、激しい怒りを覚えた。

そして最後に、今の政治家に「武力で争わず戦争をしないという憲法9条を変えて何をしようとしているのか」と訴える。2日の懇談会は午後2時から、あきる野市中央公民館で。入場無料。

8日午後1時半からは五日市地域交流センターで「五日市憲法を学ぶ」と題し、歴史家の色川大吉さんとともに、旧家の土蔵で「五日市憲法を発見した江井秀雄氏を招いた学習会も開く。参加費200円。問い合わせは同会事務局(042・558・7857)へ。

### 語り継ぐ戦争の記憶

「私たちの戦争体験記」発行 あきる野

あきる野市中央公民館で2日、太平洋戦争を体験者の手記をまとめた「私たちの戦争体験記」(B5判、40頁、戦争を語りつぐ会、定価350円)の発行イベントが開かれ、関係者など約20人が参加した。

体験記は「あきる野9条の会」(瀬沼辰正筆頭代表)の会員で同市伊奈の故野武雅之さんの呼びかけで1年前から企画、募集していたもの。同市在住者を中心に延べ25人の

手記が掲載されている。戦時中、満州出征やシベリア抑留を経験した小池長之助さん(同市二宮)

「西郷新開」

は戦時中の思いを「爆弾や鉄砲の弾も悲劇を生んだが、銃後の国民生活も困窮を極めた」と、戦争は生活の隅々まで影響を及ぼしたと話した。

山田さち子さん(同市平沢)は、女子挺身隊として召集令状「赤紙」の宛名書きに従事。「この経験は大きなトラウマと

露。終戦50年を機に当時の出来事を書き残し、「二度と間違いを起(こ)してはいけない」との思いを後世に残したいと話した。問い合わせは同会事務局(042・558・7857)へ。



戦争時の経験を語る参加者

あきる野9条の会は2日、あきる野市中央公民館で、冊子「私たちの戦争体験記」(写真)発行のつどいを開きました。執筆者十一人を含め、二十六人が参加しました。

冊子は、二十五人が体験記を執筆し、約一年で完成しました。同会幹事の佐野泰道さんは「体験記発行を進める半ばで、幹事の野武雅之さんが亡くなる悲しい出来事もあったが、みなさんの協力で発行することが出来た。発行を野武さんに

## 戦争体験伝えたい

あきる野9条の会が冊子

報告し、戦争を体験した執筆者の思いを、広く伝えていきたいと話しました。参加者から「生活の中に九条をしみこませていく必要がある。戦争になると日常生活の隅々まで影響を及ぼす。戦争の渦に巻き込まれることを書いた」「赤紙の記を読んでもらうようすめたい」「召集された兄が戻ったとき母が涙を流して喜んだこと、先生の言葉

要がある。九条の輪を大きくするために若い人に体験することを書いた」「赤紙の記を読んでもらうようすめたい」「召集された兄が戻ったとき母が涙を流して喜んだこと、先生の言葉



◆学習会「五日市憲法を学ぶ」  
8日13時半—16時、五日市地域交流センター第4—6会議室(武蔵五日市駅)。群読「日本国憲法(一部)」と、江井秀雄さんの講義「五日市憲法を学ぶ」。資料代200円。あきる野9条の会主催。《問》042—558—7857同会事務局・前田。

◆学習会「五日市憲法を学ぶ」8日(土)午後1時半—4時。五日市地域交流センター第4—6会議室(旧五日市庁舎、あきる野市五日市4—1、JR五日市線武蔵五日市駅徒歩10分)042(5588)1111。講師「江井秀雄氏(民衆思想研究所代表)」。資料代200円。主催・問い合わせはあきる野9条の会042(5588)7857、前田さん

「アサヒ」12/6

「赤旗」1/7

